

人をつなぎ 未来をつなぐ  
明石のコミュニティ・スクールだより  
KOMIKOMISUKUSUKU  
未来への教育を考える特別号

明石市教育委員会事務局学校教育課

mail : gakkyo@city.akashi.lg.jp



未来への教育を考える特別号

No.9 2021.3.3

Meet de 対話 Part4 を視聴された方から何通か感想が届きました。読ませていただきながら、この感想をもとに校内で、また教職員&保護者&地域の皆さんでこれからの教育を考える対話が始まるといいなと思うものばかりでした。そうした感想を2回に分けてご紹介させていただきたく思います。今号ではまず Meet de 対話 Part4 を Jamboard で記録したものと、寄せられた感想をご紹介させていただきたく思います。

### 若者を育てなければ日本は滅びますよ

Meet de 対話 Part4 に寄せられた感想を紹介させていただく前に、「未来の教育特別号 No.1」を読まれた先生から届いた感想をご紹介させていただきます。この感想をベースに Meet de 対話 Part4 の感想と関連付けて読まれると、これまで、そしてこれからの教育を考えるきっかけになるのではと思います。

#### 【若者を育てなければ日本は滅びますよ】

未来を考える特別号にある「若者を育てなければ日本は滅びますよ」の言葉にその通りだという思いがあります。(教育は国力につながります。)

日本だけでなく世界の価値観、考え方が多様な中で、次世代の子どもたちにどのような力をつけていけばよいか真剣に考えなければならないと思います。情報化社会で情報を活用する方法を習得し、技能を高めてもそれらを使う側のモラル、生き方、考え方等の根底にある部分を育てていかなければ、未来は開けないと思います。いつの時代でも困難に負けない強い心や人の心の痛みがわかる優しい心を持って、時代の変化に対応していくことが大切だと思います。「自分は自分でつくる。言い訳しない」

この感想を読みながら、この感想には、OECD(経済協力開発機構)が加盟国で国際学習到達調査(PISA)を行う理由の答えが書かれているように思えました。目指すのは Well-being の向上です。現職時代、なぜ PISA を行うのか理由も知らず、その結果だけに踊らされていた私ですが、今になって本質からスタートすることの大切さを感じています。そんな私にならないためにも、学習指導要領が新しくなった今、その中でミスが始まった今、その本質からスタートしていただけたらと思います。

目指すのは Well-being の向上です。Well-being とはを考えながら感想を読んでいただけたらと思います。

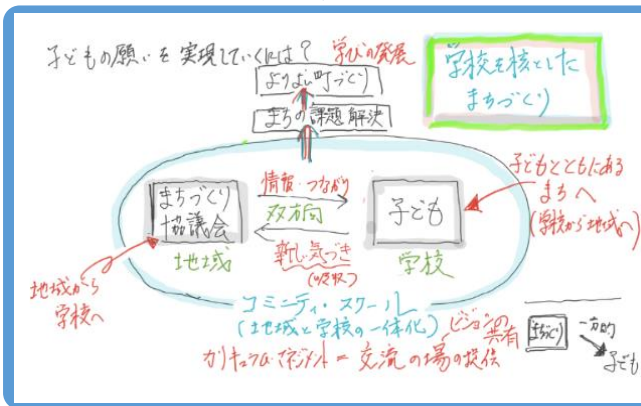
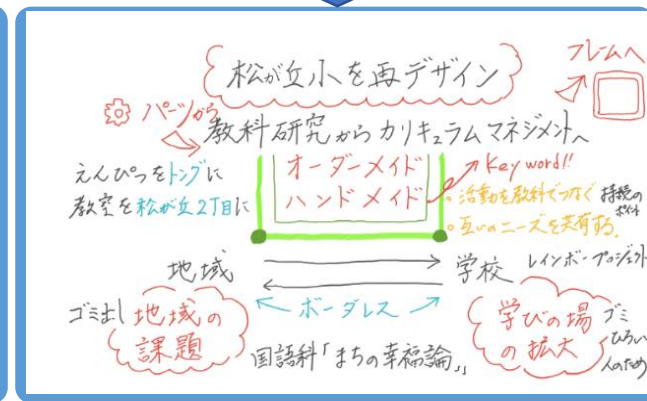
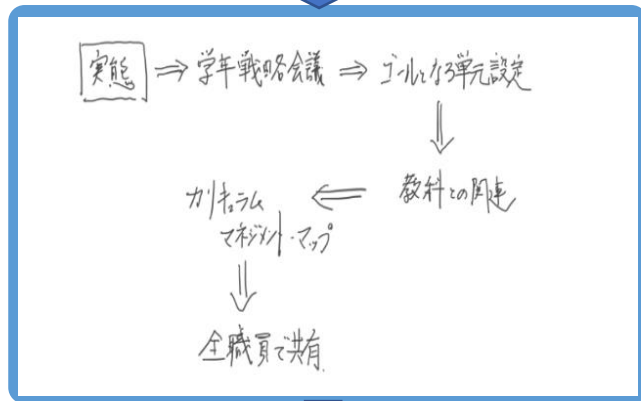
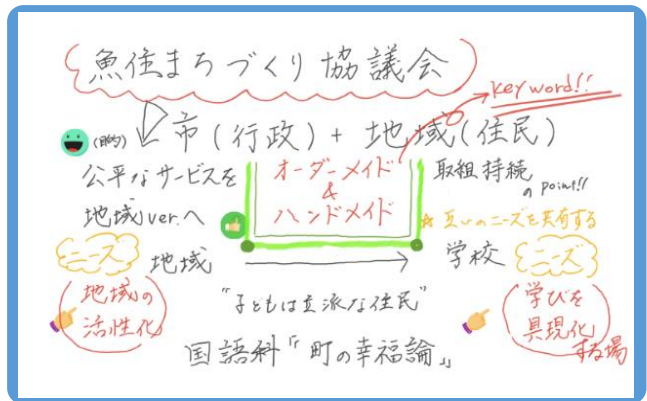
※Well-being とは：幸福で充実した人生を送るために必要な心理的・認知的・社会的・身体的な働きと潜在能力(OECD 報告書より OECD 生徒の学習到達度調査)

# Meet de 対話 Part4 記録(Jamboard を使って)

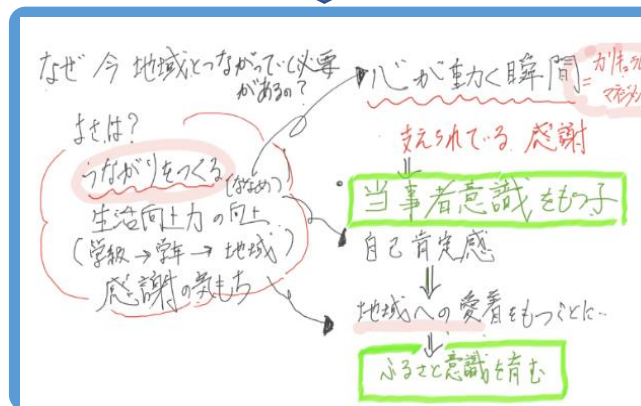
## 記録者1

〈社会科の教科書課程のモデル〉		導入	〈松が丘小〉	
対象	6年生		先生	
方法	国→出前授業→発展 ワークショップ型(子ども)	統合	カリキュラムマネジメント カリキュラムマップ(先生)	PM24
内容	研究の単元構想	実践	学校全体の学び(1冊)	
ゴール	地域住民の一員として、自ら 考え、主体的に課題を解決する力		共に育つ学校	
工夫点 (志取用)	パワーポイントの使用 ゴールの提示 まちづくり協議会の活用	リフレクティブな学び 研究の枠組みを越える 研究の枠組みを越える 研究の枠組みを越える	子どもは主体な住民	学びを 具現化 現場

## 記録者2



- 松が丘小と魚住小の取組から～それぞれの思い～
- 教科からカリキュラムへ (パーツ) → (フレーム)
  - カリキュラムを既製品からハンドメイドへ (自校モデルに再デザイン)
  - 教室と地域はボーダレス
- 自己肯定感の高まり
- 地域愛を育む
- 互いのニーズを共有し持続
- 学校の悩みを分かち合う



## お寄せいただいた感想 Part 1

### 【学校関係感想1】

松が丘小学校のカリキュラムが年々レベルアップしていることに驚きました。特に、6年生の単元過程に置いて、再構築の場を想定し、設定していること。これはすごく深い学びにつながるのだと思いました。学びのゴールを松が丘サミットの成功ではなく、きっかけとしてとらえ、一地域住民としての学びを充実させていることが素晴らしいと感じました。ただ、そこに至るまでの低学年～中学年～の根の耕し方が重要ですよね。(松が丘は松っ子教室の経験も大きい)

やはり、「自分事として考えること」が大きいカギですね。家族に愛されて育った子が家族を愛するように、学校、そして地域に愛されて育っていく子どもたちは、やはり地域に目を向け、地域の諸問題を自分事として捉えるのかなと思いました。きっと菊井君もそうなんだろうと思います。今日の提案もすごくわかりやすかったですね。若い先生方もびっくりしていました。

今年50周年を迎えました。式典の振り返りとして、多くの6年生児童が地域の方への感謝を書いていました。寒い中見守って下さっているスクールガードさん、ボランティアで花のお世話をしてくださる方々、放課後、消毒をして下さっている方々・・・私たちが思っている以上に心を動かされている子どもは多いと思いました。同じくまちづくり協議会さんが作っているまちづくり計画書を手にした児童会の子どもたちは、「学校づくりといっしょ!」「参考になる」と言っていました。

### 【学校関係感想2】

まず、菊井さんの発表やコメントを聞き、大学生であそこまで地域のことを考え、取組をされていることに驚かされました。松が丘出身ということで彼のような若者をどれだけ社会に送り出せるかということを考え、今後の教育活動を行っていきたいと思いました。

松小さんの平田T、村上Tの発表では、子どもの実態、理想の姿、願いや課題と教科・単元・教材をどうコラボレーションしていくのか、大変興味深く聞かせていただきました。自分も6年生担任ですので、自分の実践と比較させていただきました。私もバックキャストイングを普段から年に2~3回はやっていましたが、松小さんのように多くの教科をリンクしたり、実際に地域に出て活動したりすることは6年生では出来ていません。(3年生では川や歩道の清掃をしています)私はプレゼンをゴールに授業しましたが、村上Tのように実際に地域に出て体験をしたことで、子どもたちの学びはとて大きかったらうと思いました。(子どもが生き生きと活動する姿が目に見えます)また平田Tを中心とした研究の進め方やカリキュラム・マネジメント、レインボープロジェクトも大変興味深く、参考にしたいと思いました。

地域の教育力の低下が叫ばれるようになって久しい昨今、追い打ちをかけるようにコロナ禍になってしまいました。人と人、人と地域のつながりがさらに弱くなりそうなそんな今だからこそ!!「やらない」「出来ない」ではなく、「どうすればより良くなるか」「何ができるか」ということを熟考する時なのではないでしょうか。その多くのヒントが今日の素敵な時間の中につまっていたと思います。また皆さんと対話したいです。

### 【学校関係感想3】

(魚住小校区まちづくり協議会の事例について)

協議会として、計画をたてて、学校にかかわって下さっているのが分かって、大変ありがたい話だと思いました。6年生の学年を対象にして“一緒に行動したらできる”主体として、子どもを見ているところが、まちをつくっていることなのだと思います。6年生の子供たちができること、できないことを自分で考えながら、将来こういったまちにしたいというビジョンを考えさせるという活動についてはどのまちでも参考になる活動だと思いました。

(松が丘小カリキュラム・マネジメントについて)

子どもたちによりそったかたちで、学校全体のランドデザインを持つということが簡潔にまとめられていて、分かりやすく聞かせていただきました。

松が丘サミットプロジェクトでは地域の方と話し合いの機会をとってよく練られた活動だと思いました。たいていの活動が一年限りになってしまう活動になるのですが、2年前から持続しているところが素晴らしいと思います。地域を構成する人に小学校の自分たちが入っていいのだろうか迷うところがあったと思いますが、最初に一歩があったため、現在も良い活動として伝わっているのだと思います。

月1回、放課後に集まって話をする活動は双方の協力がなければ難しい活動だと思います。意欲の持続のためにどんな手立てを打っているか気になりました。子どもたちがスクールガードの見守りで名前を覚えてもらって「今日はまだ来てないよ。〇〇かなあ」というあたたかさに気づいて改めて松が丘の良さが分かっていく活動なのではないかと思いました。学校の思いも、地域の思いもよりよく出し合える場がつくられたら今よりもっとかわり合える関係になれると思いました。

### 【学校関係感想4】

それぞれの実践が、理論のみならず、具体的な取組とつなげて紹介されたので分かりやすく、追試しやすいものでした。

なぜ、今地域とのつながりが大切なのかという論点で議論が進みました。本日様々な立場の方々の対話を聞かせていただき、地域とのつながりの必要性がはっきりしました。様々な視点を得る、つまり個人個人の見目、フィルターを増やし、見方・考え方を豊かにするということです。それが人と人と、つながる価値でしょう。相互が心豊かに、広い視点で、関わる中で、創造性、生産性、互助性が高まるのだと実感しました。ゴミ拾い、昔遊びの交流……。近未来的に、それらは「機械」でできるようになるでしょう。しかし、人と人が力を合わせてするからこそ、人の心は耕され、あたたかいまち・世の中づくりに近づくのですね。新しい視点をいただき感謝しています。

ここまでの感想を読まれていかがですか。今一度、Well-beingの向上を目指して校内でカリキュラムを、カリキュラム・マネジメントをどのように考えるかを対話してみるのはいかがでしょうか？

(文責 北本)